

Forests Asia Summit 2014 参加報告

1. 概要

5月5～6日、ジャカルタにて、国際林業研究センター（Center for International Forestry Research, CIFOR）主催、インドネシア共和国森林局後援による、Forests Asia Summit 2014 - Sustainable Landscapes for Green Growth in Southeast Asia（東南アジアにおけるグリーン成長のための持続可能なランドスケープ）が開催されました。REDD 研究開発センターから、松本光朗センター長と川元スミレ（国際研究推進室長）が参加しましたので、概要を紹介します。

サミットは、ユドヨノインドネシア共和国大統領の基調講演をはじめ、政府機関と民間企業のハイレベルの代表 120 名が、30 セッションで基調講演やパネルディスカッションを行い、世界各国から 2200 名以上が参加、ウェブ視聴は 6000 件以上に及びました。プログラムはパネルディスカッションを中心に構成され、研究・教育のアプローチを促進する政府と産業界リーダーとの交流の場となり、グリーン成長政策、土地利用のための法執行の強化、低炭素経済の促進、REDD プラス等の可能性が再確認されました。

開会式冒頭、CIFOR 所長 Peter Holmgren 氏は、アジアにおける森林とランドスケープは、食糧の生産、環境の保護、ジェンダーおよび社会公平性の進歩、生計維持の機会提供、気候変動対策の促進といった面でその将来を左右し、また、これらは常に同時に、しばしば同じ場所で起こること、地域のみならず地球全体の利益のためにこれらに取り組む必要があることを強調しました。また、サミットにおけるディスカッションを構成する 3 つの基本主題として、2015 年以降の課題と持続可能な開発目標、新たな気候変動合意、グリーン経済イニシアティブ、を掲げるとともに、これらに貢献する研究の重要性を指摘しました。2 日目の冒頭では、CIFOR の新たな取り組みとして、「林業とランドスケープに関するトップ 20 クエスチョンズ」略称 T20Q (<http://forestryevidence.com/t20q/>) と名付けた、ネットでアイデアを集める実証ベースの調査アプローチを紹介しました。そして、閉会セッションの冒頭では、投資および持続可能なランドスケープのための研究に尽力することの重要性を指摘した後、3 つの基本主題を再度繰り返し、下記の 5 つのディスカッションテーマについて総括しました。

- 1) 持続可能なランドスケープ促進のためのガバナンスおよび法的枠組み (Governance and legal frameworks to promote sustainable landscapes)
- 2) グリーンリターンを得るための投資 (Investing in landscapes for green returns)
- 3) 現場における低炭素開発と気候変動 (Climate change and low emissions development on the ground)
- 4) 食糧と生物多様性のための森林ランドスケープ (Forest landscapes for food and biodiversity)
- 5) 変わりゆくコミュニティ、持続可能なランドスケープおよび公平な開発 (Changing

communities, sustainable landscapes and equitable development)

2. REDD 研究開発センター松本センター長登壇

REDD 研究開発センター松本光朗センター長は、2 日目のハイレベルパネル Climate Change and Low Emission Development (気候変動および低炭素開発) に登壇し、REDD プラスを推進するために日本政府が二国間クレジット制度 (JCM) を推進し現時点で 11 カ国が加盟していること、REDD 研究開発センターが JCM を想定した REDD プラスのガイドラインを開発していること、さらに技術解説書である REDD-plus Cookbook を開発したことを、実物を示して紹介しました (写真 1)。会場からは JCM について質問が投げかけられましたが、これは質問全体で 3 件のうち 2 件を占めており、アジア諸国の JCM に対する関心の深さが伺えました。登壇後も若年層の参加者に囲まれて質問責めに遭い、技術面、政策面の両面で日本政府や REDD センターへの大きな期待が感じられました。(写真 2) ハイレベルパネルの様子は、以下の CIFOR のウェブサイトで視聴することができます。



写真 1. 質疑応答に対応する松本センター長



写真 2. 発表後学生に取り囲まれる松本センター長

<http://www.cifor.org/forestsasia/agenda-item/tuesday-may-6th/high-level-panel-discussions/climate-change-low-emissions-development-ground/>

3. 所感

今回のサミットは、森林と農業、公的セクターと民間セクター、および都市部と地方の連携を推進することをゴールに設定しており、民間セクターや小規模な利害関係者がグリーン経済成功に重要であるとして、壇上には民間セクターからの参加が多いことに驚かされました。会合全体を通じて、「10 億ドルあれば、あなたはどのようにどこに投資しますか？」といった投資の話題が多い中で、Peter Holmgren 氏が、開会挨拶と閉会挨拶などで問題解決のための研究の重要性を繰り返し指摘していたのが印象的でした。また、閉会前のパネルでは、International Forestry Students' Association (国際林学生協会) から、全体的に登壇者の年齢層が高く将来を担う若年層が含まれていないことが指摘されましたが、Holmgren 氏はその場で次のサミットではこの問題を解決することを確約すると述べました。次回それが

実行されるかどうか楽しみです。5 から 8 名で構成されるそれぞれのパネルの中に、最低 1 名は女性の指導者が登壇していたのも印象的でした。近年、米国のショッピングモールなどで、大手企業が、自社の販売している製品やサービスと一見結びつかないような環境保護アピール宣伝を展開している様子を目にしますが、**Forests Asia Summit 2014** に参加したことで、私たちの日常生活とグリーン政策がようやく私自身の中でつながりました。

CIFOR ホームページでは、サミット全体のプログラムとともに、録画をリンクしています。
Forests Asia Summit ウェブサイトへのリンクはこちら。

<http://www.cifor.org/forestsasia/program/agenda/>

すべてのビデオへのリンクはこちら。

<http://www.cifor.org/forestsasia/category/resources/videos/>

会場写真のリンクはこちら。

<https://www.flickr.com/photos/cifor/sets/72157644468826726/>

(文責 国際連携推進拠点 国際研究推室 川元スマレ)